

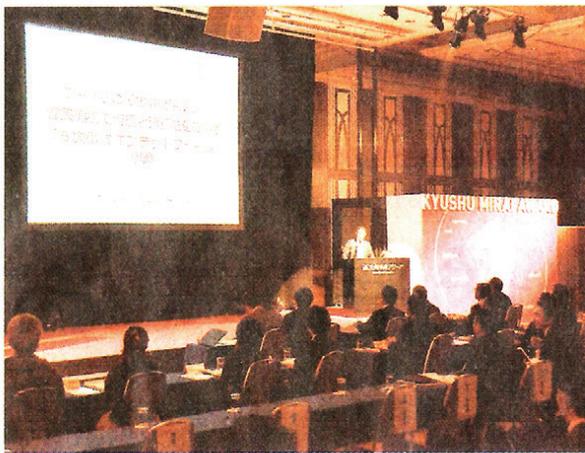
# 崇城大が学生部門大賞

## 九州未来アワード 地域振興に貢献

独自の取り組みで地域振興や九州経済に貢献する事業者などを表彰し、国内外に発信する「九州未来アワード」の最終審査が1日、大分市のレンブラントホテル大分であった。大賞に、炭化（佐賀市）と、教育情報サービス（宮崎市）、崇城大生物生命学部の「UNIT」が選ばれた。

「世界が驚くKYUUSHUへ。」をテーマに、熊日など九州7紙が開き、今回が2回目。中小機構九州協賛。地域の課題解決や振興に取り組む「地方創生・地域振興部門」と、積極的に海外で事業展開を行う「国際事業・インバウンド観光部門」の2部門に、計32社が応募。書類審査を

通過した10社がプレゼンテーションした。「学生起業アイデア部門」も新設され、5大学・6チームがノミネートした。地方創生・地域振興部門の炭化は、竹炭と茶、光触媒で青果の鮮度を保つ装置を開発。流通業者などに採用され、販路を広げた。教育情報サービスは、国際事業・インバウンド観光部門での受賞。独自の学習ソフト「ThinkBoard（シンクボード）」が途上国の授業に活用されており、高い評価を得た。



九州未来アワード最終審査で、自社の取り組みをプレゼンテーションする参加者＝大分市

学生起業アイデア部門の崇城大生物生命学部「UNIT」は、球磨焼酎と県産フルーツを掛け合わせて作るリキュールを提案した。